

鎌倉殿を支えた13人ゆかりの地

# 北条の里 江間の里

## TOPICS

- ・ 鎌倉幕府のはじまりとその後
- ・ 13人の家臣団
- ・ 頼朝の拳兵と伊豆の武士たち
- ・ 伊豆北条氏の歴史
- ・ 伊豆の国市関係年表



## 鎌倉幕府のはじまりとその後

伊豆の国市の歴史を語るには欠かせない、源頼朝

大まかな歴史の流れとともに、伊豆の国との関わりを紹介します

### 源頼朝のふるさと伊豆

#### ◆源頼朝の伊豆国流罪

後に鎌倉幕府の初代将軍となる源頼朝は、源氏の棟梁である義朝と熱田神宮大宮司藤原季範の娘との間に生まれました。

頼朝の父・源義朝率いる源氏は、平治元年（1159）12月に「平治の乱」で平氏の平清盛に敗れます。当時、14歳であった頼朝は平清盛の継母・池禅尼の助命嘆願で一命を助けられ、その後、罪人として伊豆・葦山の「蛭ヶ島」へと世話役の安達盛長を伴って配流となりました。その後、平氏の血筋である伊東祐親と北条義時の父である北条時政らの監視を受けながら、14歳から34歳までの壮年期を伊豆で過ごすことになります。

#### ◆伊豆での暮らし

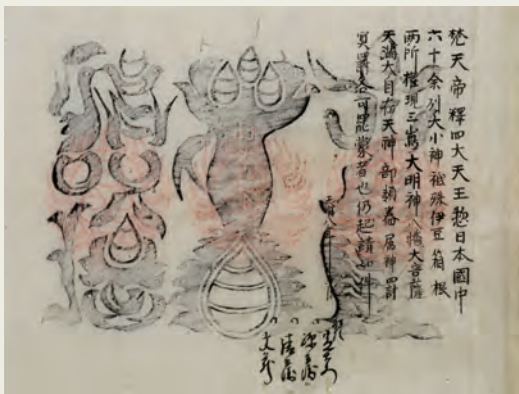
頼朝は、罪人という立場でありながらも比較的自由な行動をしていました。同時期に伊豆に配流されていた興福寺別当恵信や藤原信親、神護寺の文覚などとも交流があり、京都の三善康信、熱田神宮大宮司藤原季範の子祐親らから、しばしば外の情報も得ていました。また、天城へと向き、巻狩りと呼ばれる狩猟に出かけていた記録も残っています。

配流中の箱根・伊豆山・三島での信仰生活のちに三社詣出につながり、三嶋大社には平氏打倒の祈願をしていたといわれています。

平氏追討を掲げ拳兵した関東武士以降の起請文を書く時には、「梵天帝釈」「八幡大菩薩」「天満大自在天神」「三嶋大明神」「伊豆箱根両所権現」「惣而日本国大小神祇」が必ず列挙されています。起請文とは、武家が誓いを立てる際に、その誓いを破らないことを神仏に誓う

ための文書であり、伊豆にゆかりのある神仏の名が列挙されていることから、頼朝の伊豆への深い思い入れがわかります。

鎌倉で幕府を建てたあとも、頼朝は三社詣出として、伊豆山権現、箱根権現、三嶋大明神を参詣しました。



関東における起請文

### 鎌倉幕府成立を目指して

#### ◆源氏の再興をかけた戦い

配流中、伊豆国田方郡北条（現在の伊豆の国市）を拠点とする在地豪族で頼朝の監視役でもあった北条時政の娘・北条政子と結ばれた頼朝は、時政の援助をもらい力をつけていきます。

治承4年（1180）4月27日に、北条氏館にいた源頼朝のもとに後白河天皇の第三皇子・以仁王から平家追討の令旨が届きます。同年8月17日、頼朝は三嶋大社の祭礼の日、伊豆を治める代官である平氏の山木兼隆を襲撃し、源氏再興を目指しました。その際に頼朝に従った多くが、伊豆の武士たちでした。

山木兼隆襲撃を成功させ、平氏追討に勢力をつけていきますが、次の戦いである「石橋山の合戦」では敗れてしまい、安房（現在の千葉県）へと逃れます。



「石橋山の合戦」に敗北し、安房へと逃れた後、房総半島一帯の一族を味方に付け、大軍勢となって平氏軍に逆襲することになります。さらに、東国の武将をまとめて鎌倉に入り、初の武家政権となる鎌倉幕府をつくりました。

### ・頼朝の挙兵と 伊豆の武士たち

北条時政の嫡子・宗時や狩野茂光が戦死した「石橋山の合戦」には、後に「承久の乱」で戦功をあげることとなる伊豆田代の武将・田代信綱も新たに参戦しました。その他、伊豆の国市天野出身の天野遠景・政景・光家、同市長崎からは近藤国平、同市奈古谷から那古谷頼時らが挙兵に従いました。また、函南町上沢の出身とされる沢宗家も、かつて沢郷と呼ばれていた伊豆の国市天野・小坂・長瀬あたりの出身とも考えられます。

## 鎌倉幕府・執権制の確立

### ・将軍独裁政治と

#### 「13人の家臣団」

源頼朝の急逝の後、若くして第二代鎌倉幕府将軍となった源頼家を

補佐する名目で、将軍独裁政治から集団指導体制の合議制による政治へと移行していきます。

合議制とは、複数人で集まって相談をした上で意思決定を行う制度をいいます。鎌倉時代に、合議制のために集められたのが、後に幕府の頂点に立つこととなる北条義時、その父である北条時政、大江広元、三善康信、中原親能、三浦義澄、八田知家、和田義盛、比企能員、安達盛長、足立遠元、梶原景時、二階堂行政の「鎌倉殿の13人」でした。幕府の実質的な支配権をめぐり内部抗争を繰り返していきます。

### ・執権政治のはじまり

激しい内部抗争の末に、初代執権として鎌倉幕府を支配することになったのは、頼朝の妻・北条政子の父である北条時政でした。時政の以後、子・義時が継ぎ、執権職は北条氏によって世襲されるようになりました。

### ・深まる朝廷との対立

第二代執権・北条義時が幕府内で実権を握り、朝廷で後鳥羽上皇が院政を始めると両政権の対立が次

第に表面化しました。京都の公家の間では、武家政権の基礎が着々と確立していくのに対して根強い反幕府の動きが残っていました。

### ・北条政子の演説と 幕府の勝利

承久3年(1221)5月、源氏の流れを汲む将軍が途絶えたことをきっかけとし、後鳥羽上皇を中心に、朝廷方が権力回復を目的として執権北条義時の追討の兵を挙げます。将軍と主従関係で結ばれた武士・御家人でありながら、朝廷側につく者も現れました。鎌倉幕府の御家人達に動揺が広がる中、北条政子が動揺する御家人に対して結束を呼びかける大演説を行い、御家人たちを奮い立たせます。

「みなの方、よく聞きなさい。

これが最後の言葉です。頼朝公が朝廷の敵をたおし、幕府を開いてこのかた、官職といい、土地といい、その恩は山より高く、海より深いものでした。みながそれに報いたいという志はきつと浅くないはずです。名誉を大事にする者は、京都に向かって出陣し、逆臣をうち取り、幕府を守りなさい。」『吾妻鏡』部分要約、東京書籍中学校『歴史』教科書より

この言葉を聞いた鎌倉の御所に集まった御家人たちは涙を流し、京都へのぼり朝廷の軍と戦う決意をしました。そして、幕府は北条泰時、時房を大将として総勢一九万で京都を攻め、幕府軍は圧倒的な勝利を納めました。

## 鎌倉幕府のその後

北条義時は、朝廷を武力で倒した唯一の武将として、歴史にその名を刻むこととなりました。この出来事が「承久の乱(承久の変)」です。朝廷側が、武士から朝廷への政権交代を謀ったものの、逆に幕府の体制の基礎を固めることとなりました。

その後、幕府は朝廷の権力を制限をはじめ、朝廷を監視する六波羅探題の設置、皇位継承等にも影響力を持つようになるなど、幕府主導の政治体制を固めていきました。

以後、北条氏による「執権政治」は百年以上続くこととなります。

源頼朝の急逝の後、合議制のために集められた「13人の家臣団」伊豆出身である北条義時、その父・北条時政を中心に紹介します

## 北条時政



鎌倉幕府初代の執権。田方郡北条郷で誕生。平直方の末裔時方の子。『増訂豆州志稿』には時家の子とある。母は伊豆掾伴為房の娘。通称北条四郎。狩野川流域に開けた沖積平野の一角を占める北条の地周辺(伊豆の国市)が、北条氏の本拠地。

北伊豆の豪族であり、国衙に勤める在庁官人でありながら、源頼朝挙兵以前のことは、ほとんど不明である。娘政子が頼朝と結ばれたので、義父として鎌倉幕府創設まで一族の命運をかけて総力をあげて支援し、権力の中核の座を占めることになった。元暦2年(1185)、平氏滅亡後、頼朝・義経兄弟の対立が表面化した。義経の挙兵失敗、逃亡の時点で時政は手兵を率いて上洛し、

守護・地頭の設置を認めさせた。これによって頼朝の全国への統治権が承認され、鎌倉幕府の実質的な成立となる。

頼朝の死後、2代将軍となった頼家を、幕府草創以来の東国豪族の対立から、建仁3年(1203)9月2日、比企能員を誅殺し、源頼家は北条時政の誅殺を命じたが、その使者が殺害され、頼家を修禅寺へ幽閉、実朝の3代将軍移譲となった。これを主導したのは時政・政子父娘で、時政は執権の地位につき、幕府の実権を掌握した。その後、時政の強権に反発する畠山氏などの謀反が起き、義時・政子姉弟は、時政を出家させ伊豆に引退させた。時政は元久元年(1204)鎌倉から故郷のこの地へ移り、建保3年(1215)正月6日、78歳の生涯を閉じた。北条郷が属していた寺家の願成就院境内地に供養塔の墓が残る。

時政は武家政権の推進役を果たしたが、こうした側面とともに、蒞

山に願成就院を建立し、運慶を招来して国宝となった仏像を制作させ、この地文化・風土の形成にも大きく貢献した。

## 北条義時



北条時政の次男。江間に居住したので江間小四郎と称した。元久2年(1205)相模守に任ぜられ、父時政に代わって執権となる。承久3年(1221)に起こった承久の乱では後鳥羽上皇に院宣を下して平定する。貞応3年(1224)6月13日鎌倉で卒去した。子は安千代・泰時・時房・重時・政村・時経。長子安千代が11歳の時、江間の千葉寺で書を学び帰宅途中の池堤付近で大蛇に

呑み込まれたので、義時は家来を差し向け大蛇を退治したという。頼朝法華堂東の山上に新たに法華堂が建てられて葬られたと、吾妻鏡に記されているが、南江間北條寺に3代執権泰時によって建てられたという夫妻の供養塔の墓がある。

## 大江広元

政所別当。源頼朝の死後も幕府の中で中心的な役割を担い、鎌倉幕府の基礎を築き上げた公家。



土肥神社に伝わる実朝が描いたという大江広元

## 安達盛長

安達藤九郎盛長。伊豆の蛭ヶ島に流されていた源頼朝を援助した武将。源頼朝の伊豆配流中の20年間に側近中の側近として仕えた。妻は頼朝の乳母比企尼の長女。治承4年（1180）5月9日から源頼朝が源氏再興を祈願し、百日毎晩蛭ヶ島から三嶋大社に日参したとき、従者盛長が大社「相生の松」の場所で警護したといわれる。頼朝の死後、出家して蓮西と称し、正治2年（1200）4月26日、66歳で没。盛長は秋田城主安達氏の祖先となる。墓は伊豆市修善寺字小山にある源範頼の墓の側にあったが、昭和58年（1983）梅林の登り口に移された。

## 三善康信

問注所執事。伊豆の蛭ヶ島に流されていた源頼朝に、定期的に京都の情報を伝えていた公家。母が頼朝の乳母の妹だという。

## 八田知家

八田四郎右衛門尉。伊豆市関野の東に小地名で八田があり、ここが館跡といわれる。神明社はその霊社という。治承4年（1180）11月8

日、小栗十郎重成の小栗御厨の八田の館に頼朝が入ったことから、八田の館を「小栗御厨内の八田にあった小栗氏の館、現、茨城県筑西市八田。後の常陸守護である八田知家はこの地を領して家名とした」ともいう。承久の乱（承久3年、1221）に際して5月22日進発の五陣に筑後太郎左衛門（八田知重）・天野左衛門尉（政景）・狩野介入道（宗茂）らに加わり、伊豆国から伊東左衛門尉（祐時）・宇佐美五郎兵衛・同与一（祐村）で10万騎に達した。

## 三浦義澄

源氏再興の挙兵後、石橋山の戦いに敗れ、安房国に渡った源頼朝を助けた武将。三浦大介義明の嫡男。

平家討追に尽力し、頼朝の征夷大將軍の辞令を受け取った。

正治2年（1200）正月23日、死去。

## 中原親能

大江広元の兄。公家出身の御家人。

政所公事奉行。源頼朝の次女三幡の乳母夫。承元2年（1209）12月18日、京都で卒去。

## 梶原景時

石橋山の戦いで平家方にありながら源頼朝を助けたという武将。源頼家の乳母夫。

正治元年（1199）12月に失脚、翌正月20日討死（梶原景時の変）。

## 二階堂行政

政所執事を務めた公家。  
大江広元・三善康信と並んで源頼朝を支えた実務官僚。

## 比企能員

源頼朝の乳母比企尼の養子。  
源頼家の乳母夫。建仁3年（1203）の比企の乱で滅亡。

## 和田義盛

侍所別当。三浦大介義明の孫。  
建暦3年（1213）の和田合戦で滅亡。

## 足立遠元

足立氏の祖。安達盛長の甥にあたる。



## 頼朝の拳兵と伊豆の武士たち

北条時政、北条義時親子の他、

頼朝の拳兵に参画した伊豆出身の武士たちを紹介します

### 北条宗時 生没年不詳

北条時政の長男。治承4年(1180)8月24日、石橋山の合戦で源頼朝や北条時政等は敗れ、宗時は父と別れ、相模の土肥山から伊豆へ戻る途中、平井郷早川の辺りで小草井(平井)久重(紀六)に射殺され、自殺した狩野茂光とともに函南町大竹に墓が残る。

### 狩野茂光 生年不詳・1180年

嘉応年(1170)4月、当時伊豆七島を暴れ回っていた鎮西八郎為朝を討ち取って勇名をとどろかせた。やがて治承4年8月源頼朝の拳兵にあたっては、早くから帷幄(陣営)に参画し、その子親光とともに頼朝の股肱として活躍、同年8月石橋山の合戦で討死。一説に加藤景員が伊勢より来たとき狩野茂光を頼ったという。

函南町大竹神戸坂の中腹に祀ら

れている2基の宝篋印塔は北条宗時・狩野茂光の墓と伝えられる。伊豆市日向の日輪寺の寺域にある宝珠庵の本尊地蔵は狩野茂光の護身仏という。

### 田代信綱 生没年不詳

現伊豆市田代の住人。伊豆国の豪族狩野(工藤介)茂光の娘との間にできた子。治承4年(1180)8月の石橋山の合戦に参戦した。平家追討戦で活躍し、最初は寿永3年(1184)2月5日、源義経に参陣し一ノ谷合戦、蒲冠者(源)範頼麾下として、次に元暦2年(1185)2月19日、屋島の合戦に、源九郎義経の指揮下で奮戦した。そして、同年4月29日、頼朝が、西海の源氏方将士に対して義経の勝手な命令に従わないように勧告するための使者を派遣したおり、頼朝の書状は田代信綱に伝達されている。承久3年(1221)承久の乱で北条義時に従

い、功を立て、和泉国大島郷(大阪府)の地頭職を得ている。のちに長子頼綱に職を譲り、田代で余生を送った。信綱の墓は田代にあり、田代叢林寺境内の田代観音には信綱の守本尊とされる千手観音が祀られ、裏山の五輪塔及び小石塔は信綱並びに一族の墓といわれる。田代砦は丘陵上平地が城館跡といわれる。

### 天野遠景 生年不詳・1222年

鎌倉時代初期の武将。伊豆国天野(伊豆の国市)の出身で字出口、馬々萱、関口等が居館跡と伝えられる。源頼朝の拳兵には最初から従い、山木攻めや石橋山に戦い、平氏追討の時には工藤祐経・宇佐美祐茂らとともに周防から豊後に渡り西海で活躍した。遠景は豆州天野庄・狩野庄内牧郷などの地頭職、豆州糠田庄などの公文職を領していた。政景は貞永元年(1232)閏9月10日、彗星が出現したことにより祈禱雑掌

を勤め、延応元年(1239)5月5日、將軍藤原頼経の病氣平癒祈禱の呪詛を取り仕切り、宝治元年(1247)12月29日には京都大番役の「結番注文」に天野和泉前司(政景)跡と見える。伊豆の国市天野に碑、位牌が東昌寺に残されている。

### 仁田忠常 1166年 - 1203年

頼朝の側近の御家人として著名。治承4年(1180)8月17日の源頼朝の旗上げに次郎忠俊とともに参加した。以来頼朝の信任を得て、文治元年(1185)の平氏追討、同5年の奥州征伐に従軍し、戦功をあげた。墓は函南町仁田宅にあり、3基の五輪塔が忠常兄弟の墓と伝えられている。

### 近藤国平 生没年不詳

平安時代末期、伊豆国衙の在庁官

人または郷司という国澄の次男。伊豆の長崎(伊豆の国市)に住み、石橋山の戦いで敗北すると北条時政・義時父子や岡崎義実・土肥実平等と安房国(千葉県)へ逃れ、その後各地に転戦し、頼朝が鎌倉に落ち着くとその側近となった。文治元年(元暦2年・1185)2月には中原久経と鎌倉殿御使として京都へ上り、7月末まで畿内11か国鎮定に活躍した。その後、占領地域の拡大とともに業務も増え、四国・九州にまでおよんだ。

九州は当初範頼が管領であったが、在地武士の非法狼藉が絶えず、ついに頼朝は範頼を鎌倉へ呼び戻し、中原・近藤両名を派遣することとし、国平等は文治2年7月、院庁の下文を持って現地に急行した。文官の才能をもつ中原久経と武断的解決を計る国平等は名コンビであった。正治元年(1199)3月5日讃岐国守護となる。

**加藤 景員** かげかず 生没年不詳

勢州より伊豆に至り狩野氏を娶り光員・景廉の2子を産む、源頼朝拳兵に従った。

**加藤 景廉** 生年不詳 - 1221年

加藤景員の子。通称は加藤次。伊豆

市牧之郷の字殿前、馬場付近が居館跡という。源頼朝拳兵の際、頼朝に従って山木判官平兼隆の首級を挙げるとともに石橋山の合戦では頼朝の危機を救うなど多くの功績により各地の地頭に補せられ、岩村城(岐阜県)を創築した。伊豆市牧之郷の北狩野荘北側の線路沿いに金剛寺があったと伝えられ、6基の五輪塔が祠の中に並び、加藤景廉一族の墓といわれる。

**加藤 光員** みつかず 生没年不詳

加藤景員の子、光員・景廉等、牧之郷村に居住したという伊豆山神社の磐に建保元年(1213)12月13日加藤光員奉納とある。

**堀 親家** 生年不詳 - 1203年

藤次は通称。伊豆国狩野庄大野郷(伊豆市大野)の土豪、武将。狩野茂光に従い、のちに源頼朝に仕える。『吾妻鏡』には治承4年(1180)の山木攻め以来、8月石橋山の合戦に参戦、建仁3年工藤行光に誅殺されるまで、20余年にわたって登場している。治承4年8月24日の石橋山の合戦に参陣した武将。建仁3年9月2日、比企能員が北条時政に討たれると、病床にあった頼家から時政

追討の令を託され、侍所別当和田義盛と仁田忠常に伝えた。しかし、義盛はこれに従わず時政に密告し、親家は捕らえられて刑死した。伊豆市大野から伊豆の国市田原野へ向かう山道の途中に堀の山・藤次林・藤次屋敷と呼ばれる所がある。この付近が堀藤次親家の館があった場所と推定され、現在、この道ばたに地元老人会が「堀藤次親家館跡」碑を建立した。親家の供養塔は伊豆市大野定林寺にある。

## その他

- ・北条時定(平六)
- ・狩野親光(五郎)
- ・宇佐美祐茂(三郎)
- ・宇佐美政光(平太)
- ・宇佐美実政(平次)
- ・堀助政(平四郎)
- ・天野光家(平内)
- ・大見家秀(平次)
- ・那古谷橘次頼時
- ・沢六郎宗家
- ・中四郎惟重
- ・中八惟平
- ・新藤次俊長
- ・小中太光家

伊豆北条氏の歴史

伊豆国国衙の在庁官人であった北条時方が始祖だといわれる。父は平聖範、阿多美禪師聖範または阿多美四郎聖範といい、代々東国の国司で、鎌倉より熱海に来住し、阿多見四郎と称した。時方は幼くして熱海の和田に居り、和田四郎大夫時方といていた。後に、伊豆の北条に来住し、北条という姓を名乗った。

し、北条という姓を名乗った。

[illegible]





### 守山から見た江間

守山は北条邸のあった裏にある山。ここに登ると江間が見渡せる。ここから見える江間小四郎(北条義時)邸があった一帯が江間。



### 守山から見た山木

中央が菰山城跡のある龍城山で、源頼朝が平氏抜刀で最初に討った山本兼隆邸はこの山の裏にある。山の手前の水田になっているところに蛭ヶ島があり、頼朝が流された。

源頼朝の急逝の後、合議制のために集められた「13人の家臣団」伊豆出身である北条義時、その父・北条時政を中心に紹介します

① 願成就院



伊豆の国市 寺家 83-1  
☎ 055-949-7676

守山中世史跡群の1つ。文治5年(1189)、源頼朝と関東武士団が、反抗した源義経をかくまった東北平泉の藤原氏を攻める時、北条時政が戦いの勝利を祈って建てたと伝えられ、昭和48年国史跡に指定された。

『増訂豆州志稿』によると花尊院・光照寺・上行寺は当寺の子院という。12世紀末に書かれたという記録によると北条御塔供養とある。承久3年(1221)正月20日定額寺とする宣旨が出された。「地蔵菩薩坐像銘」に北条政子の菩提を追福したことが記され、寛喜3年(1231)7月11日が政子七回忌にあたるので、この頃造立されたものと思われる。延慶元年(1308)の頃勅願寺になった。願成就院境内地に北条時政の供養塔が残っている。時政は元久元年(1204)鎌倉から故郷のこの地へ移り、建保3年(1215)正月6日、78歳の生涯を閉じた。創建当時は壮大な伽藍が並んでいたが、天正18年の豊臣秀吉の韮山城攻めで、そのほとんどが焼失、仏像だけが残ったと言う。

鎌倉時代を代表する仏師運慶が若いころの文治2年(1186)製作したという木造阿弥陀如来坐像・木造不動明王及び同年作二童子立像・毘沙門天像の各仏像は、平成25年6月、伊豆で初めての国宝に指定された。その他の仏像も安置されている。

② 北条氏邸跡(円成寺遺跡)



伊豆の国市 寺家

狩野川の東岸にある守山の北西部にある小さな谷に位置する。御所之内遺跡の中心部が「伝堀越御所跡」としてすでに史跡に指定されている。地元では「円成寺跡」と呼んでいたが、出土遺物の検討が進み、遺跡の主体が13世紀前半代であることが判明、名称を「北条氏邸跡(円成寺跡)」となった。ここを含めて伊豆北条と呼ばれた一帯(現在の寺家付近)は、平安時代末期に北条時家が創建、鎌倉時代にかけて時家の子時政の本拠地があった場所とされる。時政の晩年は子義時と確執を生じ、この地に隠棲10年間籠居ののち、建保3年(1215)1月8日没した。墓は近くの願成就院にある。鎌倉時代の武士の地方での生活を知ることができる重要な遺跡として国史跡に指定された。

元弘3年(1333)、元弘の乱による鎌倉幕府滅亡後、北条一族の妻や娘たちは鎌倉から韮山に戻り、そして、一族の中の円成尼という女性を中心となって、邸宅の跡に、北条氏の冥福を祈るために円成寺を建てた。円成寺は室町時代にも尼寺として続き、上杉氏の一族の女性が尼として入った。江戸時代後期に廃寺となった。



## ⑩ 北條寺



延元元年(1336)3月創建、開山僧大雲という。永禄 12年 8月 29日「北条氏康朱印状」によると、南条四郎左衛門・幸田与三が奉者となって伊豆宝成寺鑑西堂を改めて宝成寺の看坊に任命している。当寺はもとは観音堂から興り、観音像は鎌倉極楽寺にあったものという。小四郎山とよばれる寺内の丘の上に北条義時・伊賀朝光女子(トモヘノ女房) 夫妻と伝えられる供養塔の墓がある。義時夫人は北条政村の母であり、嘉禄元年(1225)伊賀氏事件に連座し、北条政子の計らいにより伊豆国北条に流された。本尊の木造観音菩薩坐像、木像阿弥陀如来坐像、牡丹鳥獸文繡帳(3帳)は県指定文化財。駿河・伊豆両国三十三所観音霊場の8番札所。伊豆八十八所霊場の12番札所(聖観音)、伊豆の中道16番札所。

伊豆の国市 南江間 862-1  
☎ 055-948-1399

## ⑪ 香山寺



源頼朝の監視役であった山木兼隆の居館はわからないが、恐らく山木の集落全体だったと思われる北条早雲を最初に弔った寺でもある。香山寺は山木兼隆の菩提寺とされ、山木の集落の高台にあり、葦山の平野が一望できる。

伊豆の国市 葦山 山木 868-1  
☎ 055-949-2905

## ⑦ 成福寺



8代執権時宗の三男正宗が北条一族の菩提を弔うために建立。本堂北側に北条一族の供養塔がある。

伊豆の国市 四日町 981  
☎ 055-949-1099

## ⑧ 江川邸

保元の乱で京都で平氏の勢力が強くなったので、大和国宇野(奈良県五條市)にいた江川家は、当時宇野を名乗っていたが、13人の家来を伴って葦山に移ってきた。弘長元年伊豆伊東に流され、救出された日蓮上人が江川邸を訪れ、江川邸の建設に伴って火伏せの曼荼羅(「家作棟札」ともいう)を書き、江川家の棟札とした。以来、江川家は災厄から遁れ、地震や火災の被害に遭わず、現在まで経過している。現在の家屋は、約500年前の関ヶ原合戦ころのものと伝えられている。昭和33年国の重要文化財に指定された。

伊豆の国市 葦山 1  
☎ 055-940-2200

## ⑨ 政子産湯の井戸



伊豆の国市 寺家

## ③ 最明寺



伊豆の国市長岡、日蓮宗。山号は東光山。弘長3年(1263)9月創建、開山不詳とある。北条氏発祥の当地の住民は北条時頼の死後、その徳を敬慕し、特に幕府に請うて分骨を受けて一寺を建立。天正年間(1573~92)火災に遭い、堂宇は荒廃したが、身延山久遠寺第22世心性院日遠が伊豆地方巡教の折に復興、臨済宗から慶長9年(1604)日蓮宗に改宗、現寺号を称す。

伊豆の国市 長岡 1150  
☎ 055-948-1277

## ④ 蛭ヶ島

源頼朝が14歳から34歳の平氏追討の旗揚げをするまでの20年間を過ごした場所です。現在はピンポイントで史跡になっていますが、『豆州志稿』を著した秋山富南が特定した位置です。秋山富南がそのため「蛭島碑」を建てた。

伊豆の国市 四日町 17-1

## ⑤ 珍場神社

伊豆の国市北江間。珍場という所に地名が残ри、この珍場神社のあたりにあたったと思われる。元久元年(1204)3月珍場神社棟札によると、北条義時の嫡子安千代、書をこの寺に学び、帰路大蛇に害せられたという。

伊豆の国市 北江間 1171

## ⑥ 光照寺

頼家が修善寺で幽閉され、毒殺された節がある。その様子を面に彫って鎌倉へ知らせたという面がある。

伊豆の国市 寺家 30-1  
☎ 055-949-1286





⑤ 珍場神社

北条義時邸跡

成願寺

原木駅

三島駅方面▶

牛鋤大路

頼朝が山木兼隆の襲撃の際に通った道

⑧ 江川邸

⑪ 香山寺





ロープウェイ

天野遠景供養塔

天野

長岡

③ 最明寺

古奈

小坂

伊豆長岡駅

◀修善寺駅方面

浅間神社

葦山反射炉

賀茂川神社

眞珠院

守山

守山八幡宮

② 北条氏邸跡

⑦ 成福寺

⑩ 北條寺

① 願成就院

⑥ 光照寺

⑨ 政子産湯の井戸

④ 蛭島碑



## 関係年表

|       |       |                                                                                |
|-------|-------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 保延4年  | 1138年 | 北条時政、伊豆韮山の北条で生まれる。                                                             |
| 久安3年  | 1147年 | 源頼朝、京都で源氏の棟梁義朝の三男として生まれる。                                                      |
| 保元元年  | 1156年 | 保元の乱により平氏の勢力が強くなり、<br>大和国宇野（奈良県五條市）にいた江川氏は家来を連れて韮山へ移る。                         |
| 保元2年  | 1157年 | 北条時政の長女政子が生まれる。                                                                |
| 平治元年  | 1159年 | 12月、平治の乱により源氏が敗れる。                                                             |
| 平治2年  | 1160年 | 3月11日、頼朝は14歳で伊豆韮山の蛭ヶ島へ安達盛長を伴って流される。                                            |
| 長寛元年  | 1163年 | 北条義時、北条時政の次男として生まれる。                                                           |
| 治承元年  | 1177年 | この頃、源頼朝と北条政子が結ばれる。                                                             |
| 治承4年  | 1180年 | 4月27日、以仁王の令旨が北条館に届く。                                                           |
| 文治2年  | 1182年 | 8月17日、三嶋大社の祭礼の日、北条守山で旗揚げして平氏の監視役山木兼隆を討つ。<br>8月24日、石橋山の合戦で敗れ、天野遠景の手引きにより千葉へ逃れる。 |
| 元暦2年  | 1185年 | 北条時政は、奥州平定のため仏師運慶を招いて願成就院の阿弥陀如来像他を制作。<br>願成就院は文治5年創建と伝えられるが、この時すでにあったか。        |
| 文治5年  | 1189年 | 2月、近藤国平は鎌倉殿の使いとして京都へ派遣される。                                                     |
| 文治5年  | 1189年 | 3月24日、壇ノ浦の戦いで平氏滅亡。<br>時政により守護・地頭の設置を認めさせる。                                     |
| 建久3年  | 1192年 | 北条時政は願成就院の大御堂を建設した。                                                            |
| 建久5年  | 1194年 | 7月19日、源頼朝が奥州征伐へ出発、仁田忠常も従う。                                                     |
| 建久10年 | 1199年 | 7月12日、源頼朝が征夷大將軍に任ぜられる。<br>北条義時は、願成就院修理のため下向。                                   |
| 正治元年  | 1199年 | 1月13日、源頼朝卒去。<br>3月5日、近藤国平は讃岐国守護となる。                                            |
|       |       | 12月、梶原景時の変で「13人の家臣団」の1人である梶原景時が失脚。                                             |

|      |       |                                                                                                                                                        |
|------|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 正治2年 | 1200年 | 1月20日、梶原景時討ち死。                                                                                                                                         |
| 建仁元年 | 1203年 | 1月23日、「13人の家臣団」の1人である三浦義澄死去。<br>4月26日、頼朝の死後出家していた「13人の家臣団」の1人である安達盛長死去。<br>9月2日、比企の乱で「13人の家臣団」の1人である比企能員は天野遠景・仁田忠常によって滅ぼされる。<br>比企能員に従った堀親家は捕らえられ刑死する。 |
| 元久元年 | 1204年 | 2代将軍源頼家を修禅寺に幽閉、3代将軍を実朝へ移譲。<br>時政、出家して鎌倉から引退、北条へ帰る。                                                                                                     |
| 元久2年 | 1205年 | 7月18日、修禅寺に幽閉された頼家が暗殺される。北条政子は、冥福を祈るために修善寺指月殿を建立。                                                                                                       |
| 承元2年 | 1209年 | 畠山重忠の乱・牧の方の陰謀を機に義時は二代執権となる。                                                                                                                            |
| 建暦3年 | 1213年 | 12月18日、「13人の家臣団」の1人である中原親能が京都で死去。<br>和田合戦により、和田義盛を滅ぼす。                                                                                                 |
| 建保3年 | 1215年 | 1月6日、北条時政没する。                                                                                                                                          |
| 建仁7年 | 1219年 | 12月13日、伊豆牧之郷の加藤光景は伊豆山神社に馨(けい)を奉納する。                                                                                                                    |
| 承久3年 | 1221年 | 1月27日、鎌倉鶴岡八幡宮で3代将軍実朝は公暁に殺害される。                                                                                                                         |
| 貞応元年 | 1222年 | 5月、北条義時は、承久の乱で後鳥羽上皇の挙兵を鎮圧する。                                                                                                                           |
| 貞応3年 | 1224年 | 12月27日、天野遠景没。                                                                                                                                          |
| 嘉禄元年 | 1225年 | 6月13日、義時鎌倉で卒去。                                                                                                                                         |
| 弘長元年 | 1261年 | 7月11日、北条政子死去、鎌倉寿福寺に葬られる。                                                                                                                               |
| 弘長3年 | 1263年 | 5月、日蓮上人が江川邸を訪れ、火伏せの曼荼羅を墨書して棟札とする。                                                                                                                      |
| 文保2年 | 1318年 | 9月、北条時頼の徳を偲び、分骨を受けて最明寺創建。                                                                                                                              |
| 元弘3年 | 1333年 | 北条政子の遺言により、頼家の冥福を祈るため松崎町にある吉田寺・平福寺が建立される。<br>元弘の乱により鎌倉幕府滅亡                                                                                             |
| 延元元年 | 1336年 | 最後の執権北条高時の母覺海円成に対して後醍醐天皇が円成寺創建を認める。<br>3月、北條寺創建。                                                                                                       |



